





淫魔の宴 3

成人向

フフフ
そろそろ
良いかな？

実はな
勇者ダイよ

我々の究極生物の
完成のために
是非貴様には
協力して
もらいたいのだ

もつとも
貴様には
選択の余地は
無いがな

わかるかな？
ダイよ





そう驚く程の
事ではない
先ほどその二人も
我々が複製した者だと
言ったではないか

なっ！

ふふふ
そしてダイよ
お前は既に
我々の術策に
はまっているのだ

なんだと？

これは
我々が開発した
特殊な物でな

人間共に
交配させるために
その性欲を
数倍にする
効果がある

おまえは
気付かなかつたらうが

先程から
ここに立ち込めている
香・・・

動物の発情期の
数倍の効力はあるぞ
もちろん人間との
ハーフであるお前も
例外ではない

そろそろ
効いて来た
ようだな・・・

勇者様は
もう我慢が
できんようだ
相手をして
やるがよい

くっ！

はあい♡



待ってたわ
ダイ君

このチンポ
しゃぶりたくて
ウズウズしてたのよ



あ...あ...



ねえほら
私の舌
気持ちいい
でしょう？



あら...
私も
混ぜてよ



どう？
二人のレオナに
チンポを
舐められるのは

アッ...

アッ...



それじゃあ



あらら・・・
私は
あぶれちゃったわね



むい、



ほくら♡
パフパフよ
ダイ♡

おん

うっむう・・・

ほーら
こんなに
かわいい女の子
4人とできるなんて
ダイ君は幸せね♥

ふふ
自分で可愛い
ですって

さあダイ君
一番は取られ
ちゃったけど
その分ゆっくり
味わってね♥



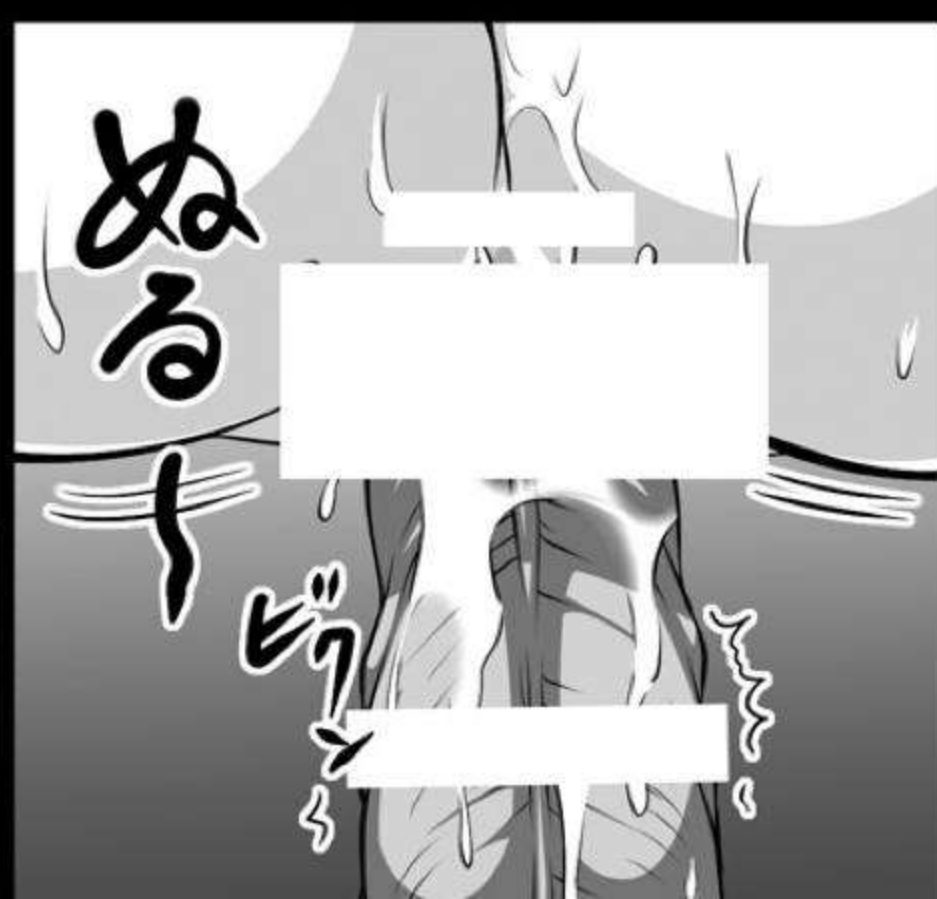
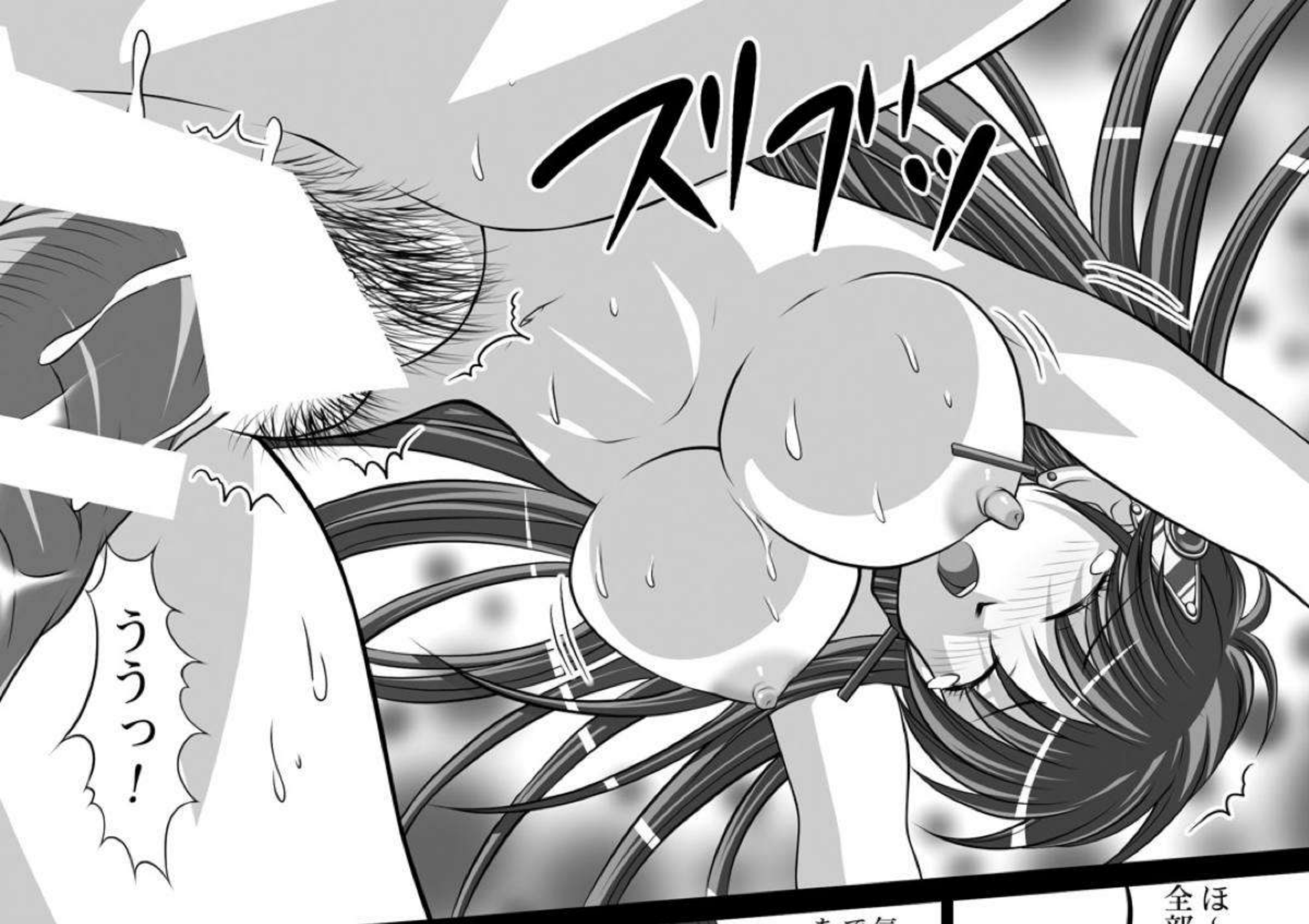
何よ
あなただって
レオナじゃ
ないの

いいじゃないの
さあそろそろ皆で
ダイをいただきましょう♥

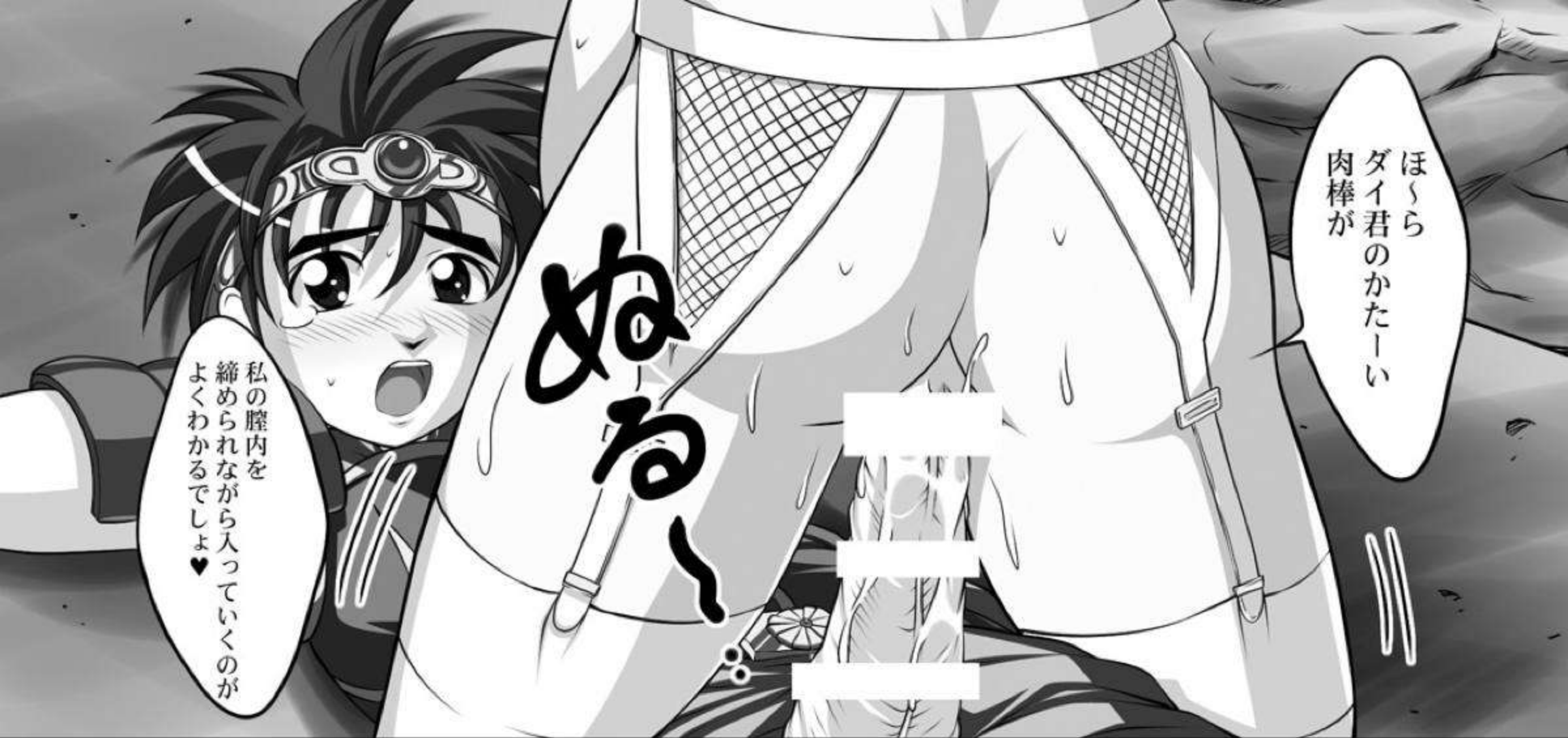
そうね
先に私に
やらせて

しょうがない
譲ってあげるわ

のし







ほくら
ダイ君のかたーい
肉棒が

私の腔内を
締められながら入っていくのが
よくわかるでしょ♥

ぬる



ダメよお
ダイ君
まだイツちやあ

はーる

はーる



うあつ
あああ〜っ!

びん

これからもっと
気持ちよくな
るんです
からね♡

にゅる〜



ふふ・
そろそろ
よいか

ぬる〜



はっ

おい

ぬちゅっ

うあつ
があああ〜っ



かっ



ううがあ
~~~~っ!

きやっ!



ヒッ!



ヒッ!



あら  
ダイ君・・・  
我慢できなく  
なっちゃった？

はっ

はっ

はっ



ああん  
♥

ズッ!ズッ!ズッ!

もう  
強引なんだからあ





イクツッ!  
イツちやう



腔内に  
出してっ!



出してっ!



ふああ



あ——っ!  
ああっ!

ソ  
チ  
カ  
ミ



え？



うわあー  
うわあー



あ..  
あうあ..



ダイ君！  
ちよつと  
待って！





ダイ君  
別にもう一度しても  
いいからちよつと待って!

だからダメだつて  
ダメえ〜!



もう  
許してえ〜

ダメえ!



お願い  
だから  
ちよつと...



はうっ!

はあッ!



お願いっ!

ガクッ

ズン

助け：  
助けてえ：

ぬちゅっ

ぬちゅっ

えううう!

ぬちゅっ

ダイ君  
私もうダメえ〜!



あああああ  
あ〜っ!

ズン

ビクッ

ズン

ズン



気持ち  
良かった？  
ダイ

おっ



でもダメよダイ  
レオナはお姫様  
なんだから  
そんなに乱暴に  
扱っては…

その点  
私なら大丈夫よ

ほら…  
ね？

いらっしやう  
ダイ♡



フフフ

あぁ..

あぁ..



まったく乱暴  
なんだからあ

あひい!

ビッ

ビッ

あひい!

あひい!



そんなに  
がつつかなくなつて  
大丈夫よ



ね・ねえ・ダイ  
そろそろ  
射精しても  
いいのよ?



うそ  
でしょ?!



何コレ?  
こんな激しい  
なんて...!

おは...



ね？ダイ  
ちよつと休み  
ましよう？  
それからまた…ね？



そんな…ね？  
ダイ  
ちよつと離して  
ね？



ちよつ…

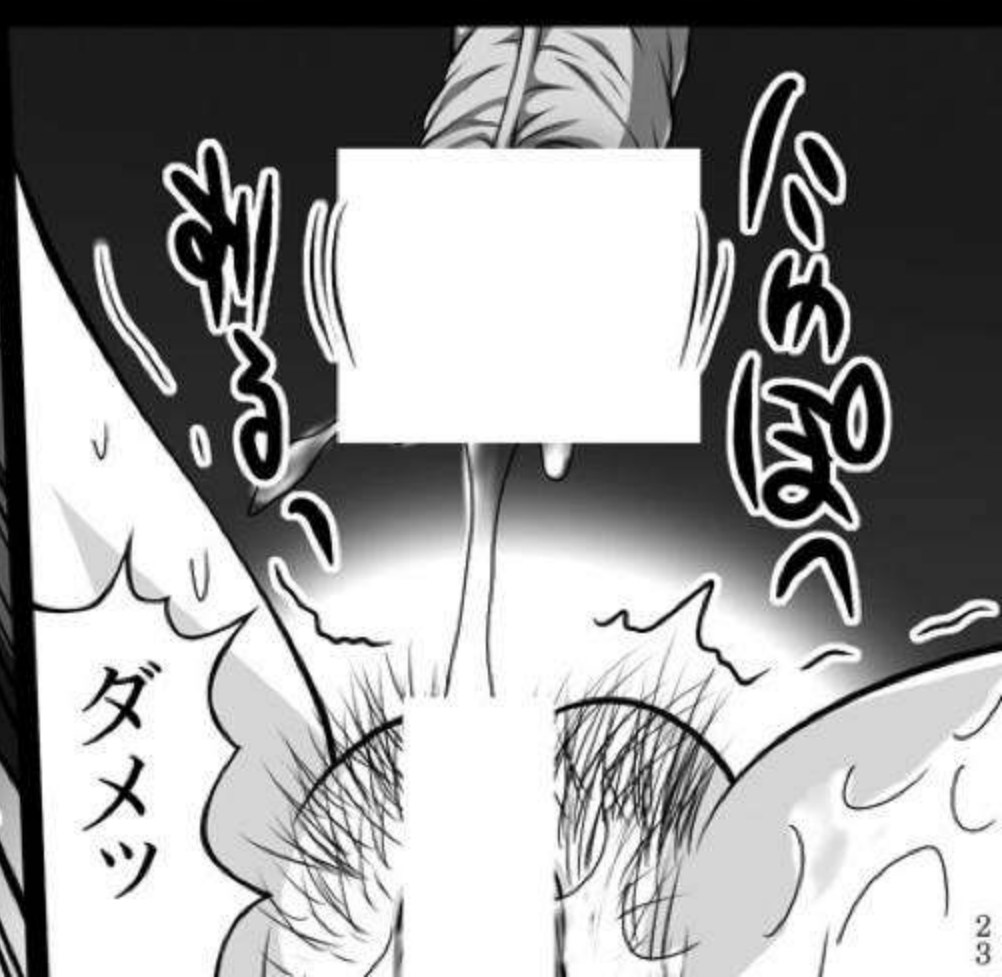
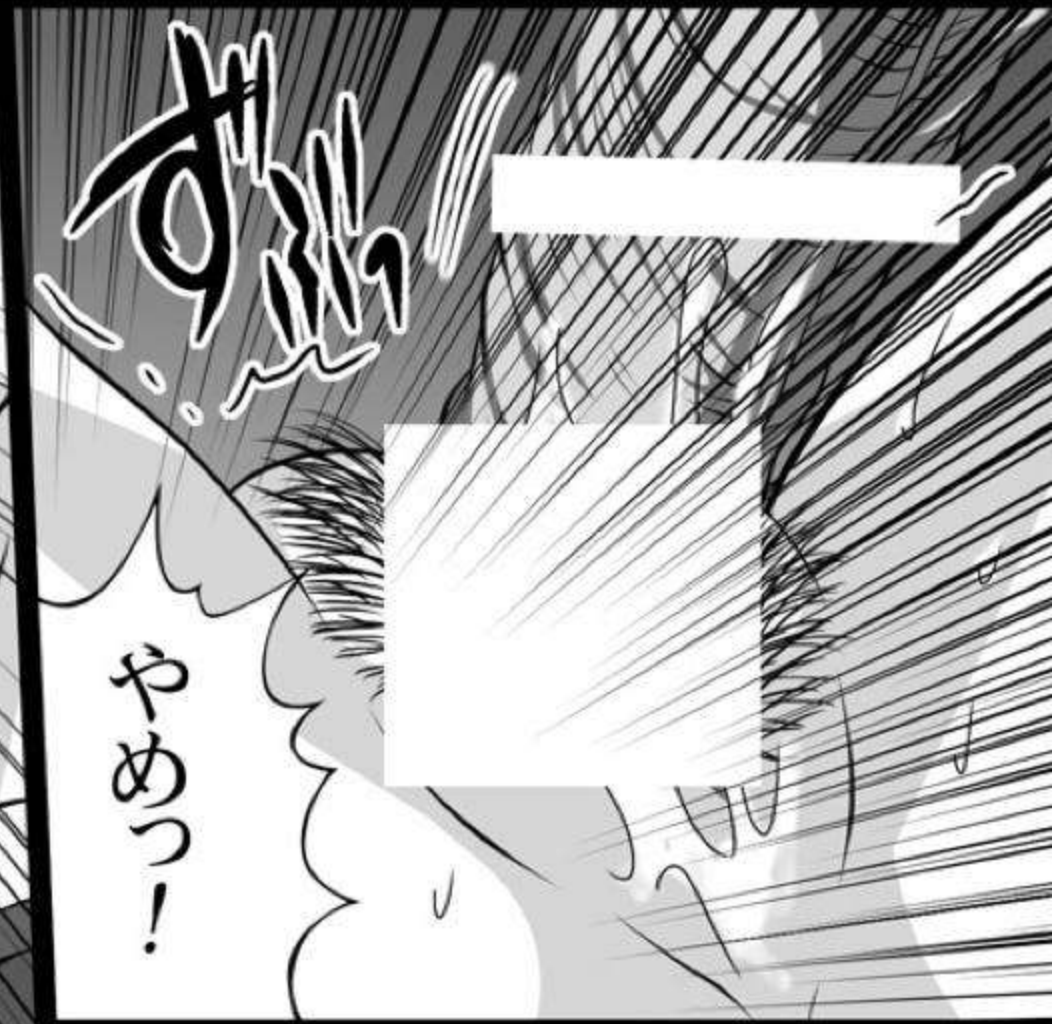


少し休ませて  
ちよつだい！





それを  
繰り返さないで！





あぐうっ!



だから!



お願い!



ダメエ〜っ!

んんんん

んんんん

はあくまったく  
勇んでおいて  
しようがないわね

同じ  
マアムとして  
情けないわあ

さあダイ  
私は大丈夫  
...



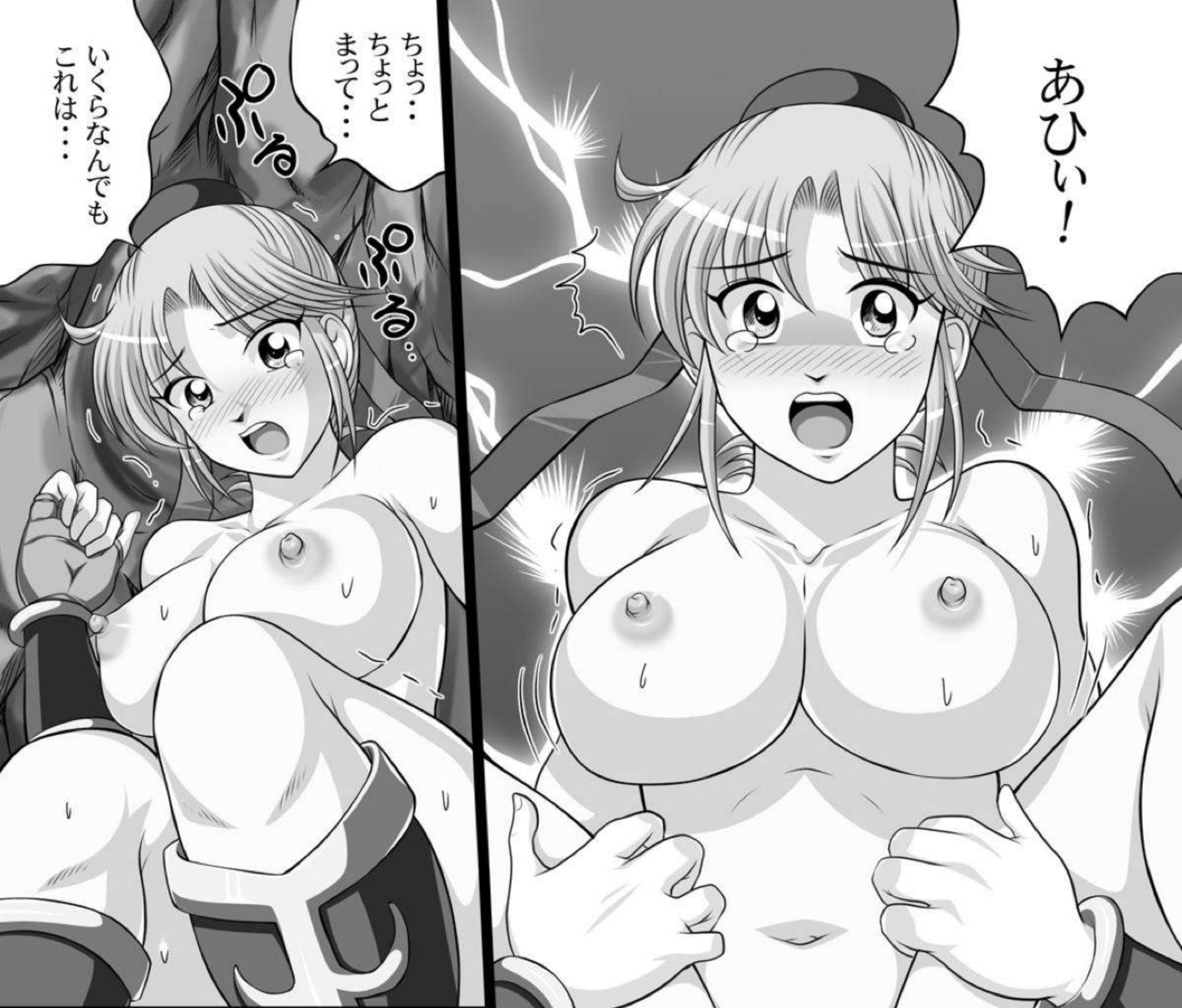
あひいー!

ちよっ..  
ちよつと  
まっつて...

おーる

おーる

いくらなんでも  
これは...



う...嘘でしょおー!



ダメ  
ダメえ



こんななのって...



そ...そんな  
こんな凄まじいなんて  
聞いてないわよ

た:  
助けてエ...っ!



あんっ!

ひああん!



あんっ!

ああん!

す: 凄すぎるわ  
あんなこと  
されたら  
いくらなんでも  
壊れちゃうわ...











おい  
奴らを  
呼ぶのだ

はっ  
しかし奴らは  
次の段階の予定  
ですが？



ふふふ  
いいぞ…  
勇者ダイ…



やれるなら  
今のうちに  
やつてしまった方が  
好都合というものだ



構わん見ろ！  
あの凄まじさを  
我々の想像以上だ！

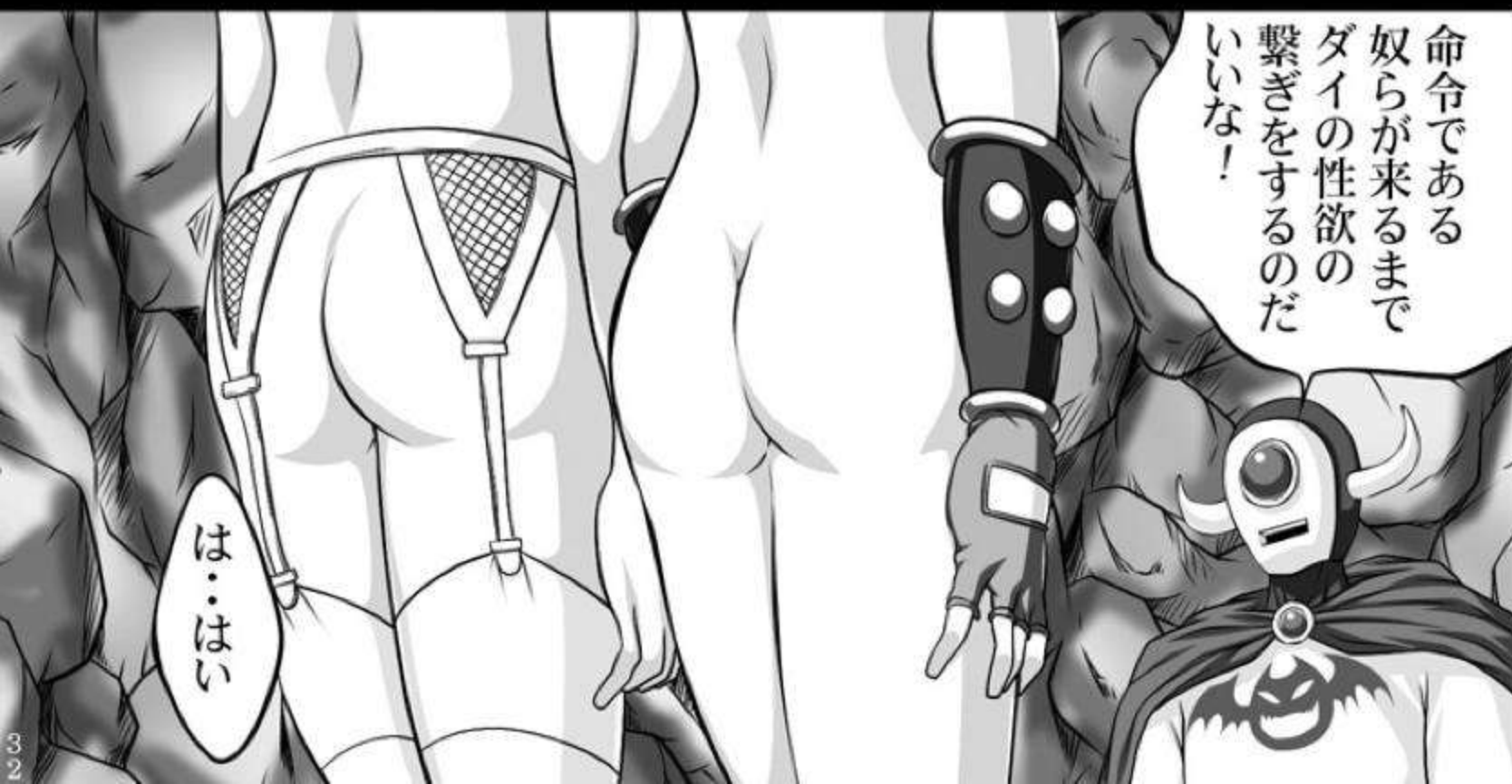
ああつ

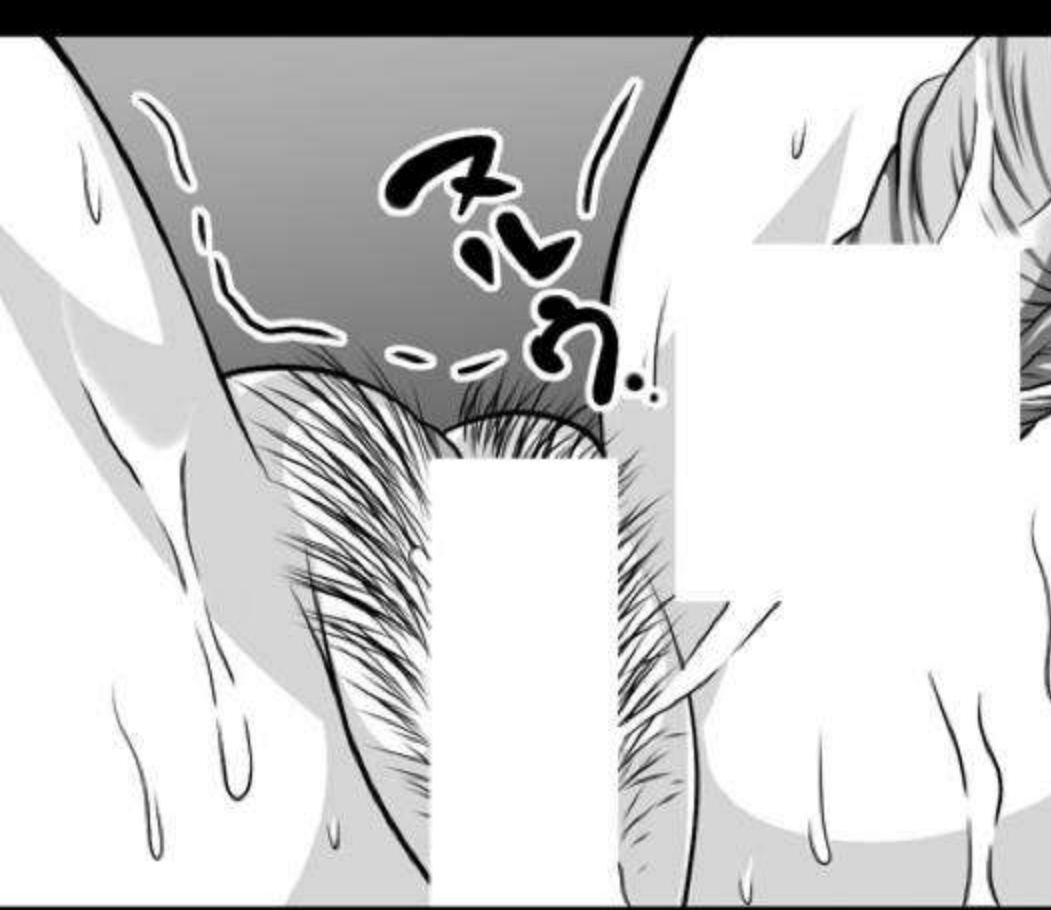
あんっ！

はっ  
承知いたしました

ずい

ああつ  
そんなつダメえ





あがつ!  
おぶう!



あいつへい  
いぶう!



んむう!



んむう!







あーっ

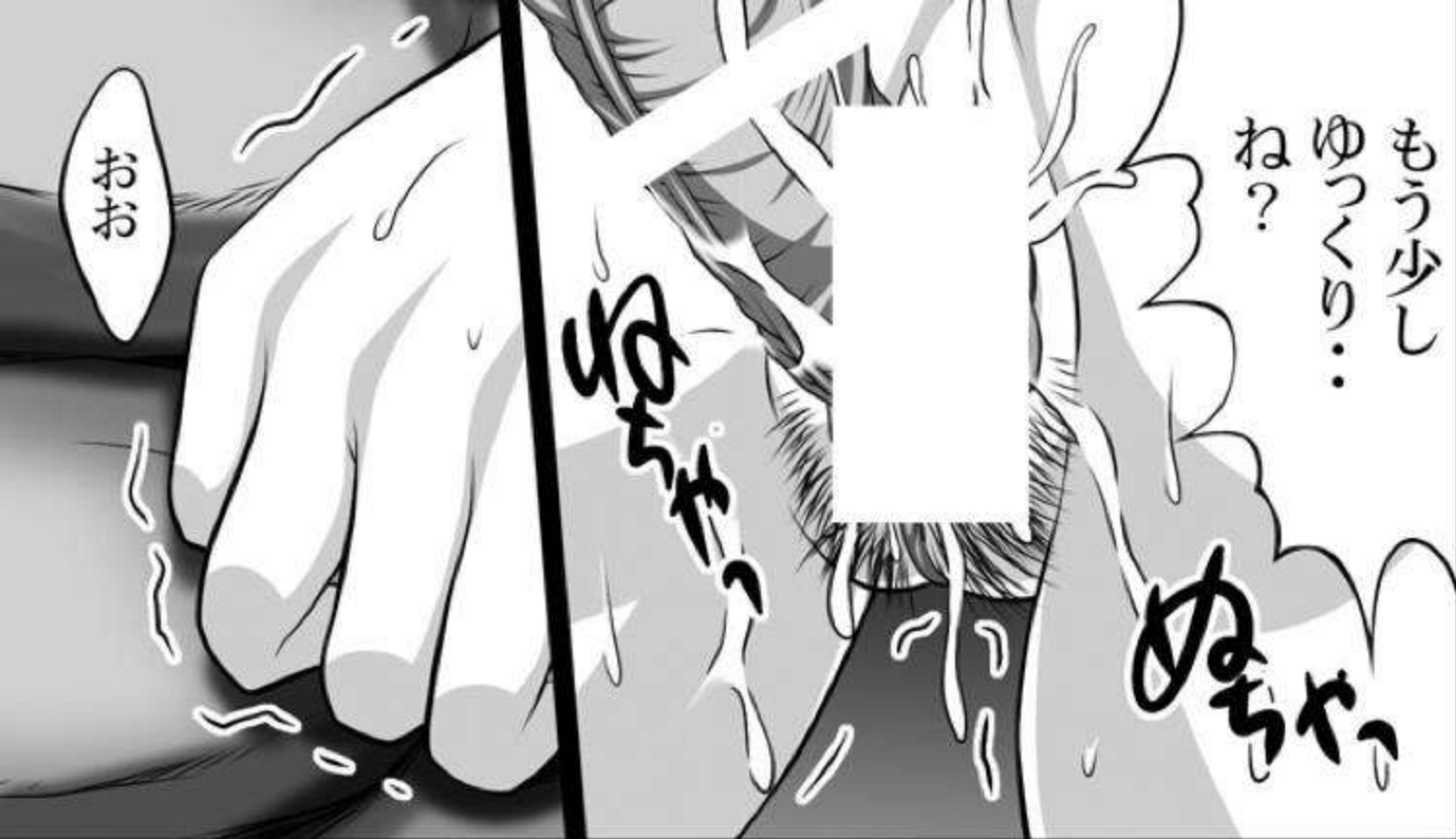
あつ  
ひいっ!

あつ  
凄  
い：  
凄  
すぎ  
る  
っ  
っ

あ

あ

あ



おお

もう少し  
ゆっくりに..  
ね？

ぬちゅん



ダイ君  
お願い！



奥までっ！  
犯されるうっ！

ずいん

ずいん



ダメエ〜！

ずいん

ずいん

もう  
ダメエ！

ずいん

ずいん



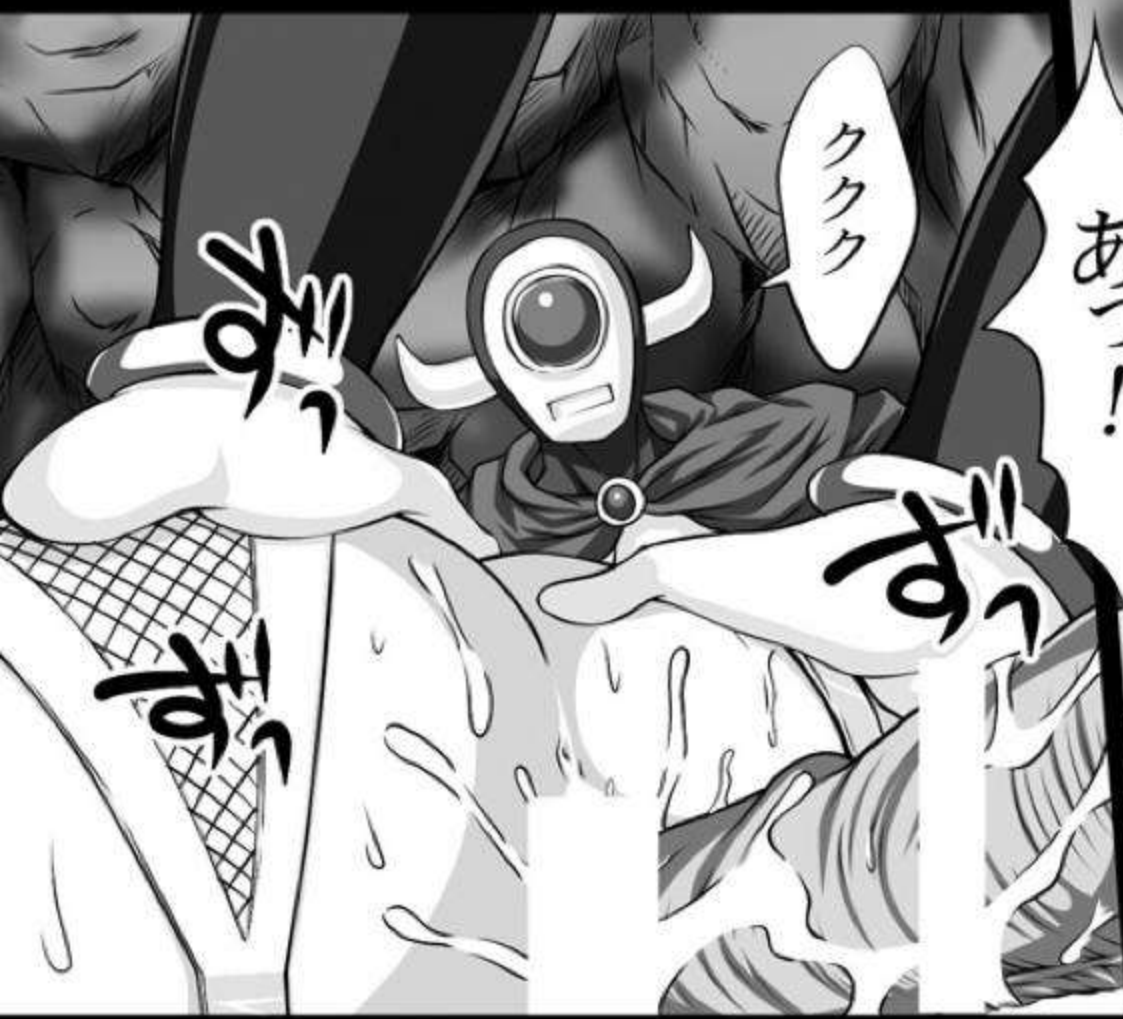
うあああ  
あ：ダ：

びん  
びん



かん

はあ。



ククク

あ

あ

あ



ああっ！

ブン

あっ！

飛ぶっ！  
壊れるうっ！

ブン

あ

あ

ええうっ！  
おあっ！

あ



よし  
お前らは  
十分に役目を  
果たした

お

あ





ふふふ  
勇者ダイよ



おい  
こいつらを  
別室に運べ

はっ



安心するが  
よいぞ



実験体は  
いくらでも  
いるのだ

■ To-be continued ■



■ おくづけ ■

|     |                                                                        |
|-----|------------------------------------------------------------------------|
| 作品名 | 淫魔の宴3                                                                  |
| 巻数  | 023                                                                    |
| 発行先 | ライトピンク                                                                 |
| 連絡先 | <a href="http://www.r-pink.jp/">http://www.r-pink.jp/</a>              |
| 協力  | 青空市場 ( <a href="http://www.aozora7.com/">http://www.aozora7.com/</a> ) |
| 発行日 | A. D. 2011年01月10日                                                      |
| 原案  | 加山 一角                                                                  |
| 作画  | 尚 たかみ                                                                  |
| 編集  | ろーどっく2号                                                                |
| 印刷  | 日光企画                                                                   |



成人向

ライトピンク



# 淫魔の宴 4

成人向



ダイのやつ・・・  
一体どこへいったんだ？

ほかは全部探したんだ  
絶対にここつきやねえ！



！



お前  
どうして？

マアム？！

あなたと  
同じよ

ダイを探していたら  
ここに  
辿り着いたって訳

そうか  
ここは絶対に  
怪しいからな

カッ

フッ..

ええ  
私も  
そう思うわ

あの部屋の  
様子を  
探ってみましょう

そうだな





そうね

でも中の様子を  
もう少し  
探ってみましょう

ここは・・・  
寝室か？

おおう

おい  
何だつて  
扉を閉めるんだ？



だつて  
誰か通るかも  
知れないもの

見つかったら  
騒がれるでしょ？

それもそうだな



しかし  
こりや何も  
手がかりになる物は  
なさそうだな

そう？

ああ  
どうやら次の場所を  
探した方が・・・

しめる

馬鹿ヤロウ！  
何やってんだ  
お前は！

だって  
せっかくこんな  
いい部屋を  
見つけたんですもの

ここで少し  
休んでいきましよう

ばばば

何言ってるんだ！  
今はそんな場合じゃ  
ないだろう

あら  
休みを取る事も  
重要よ

ね？  
ポップ





うふ

半分だけ  
当たり

ヤ!



何が  
半分だけ  
当たりだ!

魔王軍め!  
とつとモシヤスを  
解きやがれ!

残念ながら  
それは出来ないわ



何だと!  
テメエの正体は  
もうばれてんだ!

半分だけ  
当たりって  
言ったでしょ?

正体も何も  
これが私の  
本当の姿よ



ね?

ここで私と  
休んでいきましよう

おん

おん

ムキッ

テメエ……

ムキッ

マアムじや  
ないな!

どういう  
事だ？

私は確かに  
魔王軍の手先よ

でもね  
この胸も……

この太ももも……

全く部、  
本物よ

本物？  
ニセ者が！  
何言ってるやがる！

私はね

マアムの細胞を使って作られたコピーなのよ

そうよ  
だからこの体は  
本物と同じ・・・

違いは魔王軍に  
したがうよう  
心が調整されているだけ、  
だから半分だけ  
当たりってわけ

けっ

御託を並べやがって  
やっぱり偽者って  
事じゃねえか！

違うわ！

コピー・・・  
だと？

!?

キキ

ムキキキ

確かに私は  
ママムのコピーよ

でもね  
見て

この胸も……  
この足も……

本物と同じなのよ  
肉体的には  
何も変わらないの

ぽん♡

ね

ぷん

触つても  
いいのよ  
ポップ

ん

ワァ  
ワァ  
ワァ

やめろ！  
それ以上  
近づくんじゃねえ！

じゃあ  
どうするの？ポップ？  
メラでもキラでも  
やってみれば？

簡単よ  
魔王軍の私は  
丸焦げになって  
終わり

おっ

おっ

できない  
わよね？

だってあなた  
私の事が  
大好きなんですもの

そうでしょう？  
ポップ？

おわっ！

魔王軍とわかっていても  
あなたには  
私を攻撃できない

ちきしょう……  
ちきしょう……



そう言えばあなた  
私の足に  
よく見とれていたわよね？

知るか！



ふふ どう？  
私に乗られた感想は？

くっ...

い!



無理しないで  
いいわ

あ...  
は...  
は...



ほら

あっ  
がっ...

うふふ  
私の太ももに絞められて  
気持ちいい？  
それとも苦しい？

あーんっっっっっ

がっ……  
ちくしょ……

どっちかしら？

大丈夫よ  
ポップ

あーんっっっっ

目が覚めれば  
あなたは……

どこだ  
ここは…

そういえば  
オレは…

ギィ

はっ!?

あら  
お目覚め?  
ポップ

何で俺を  
殺さなかった?

殺す?  
何を勘違い  
しているの?

どういうつもりだ

ギィ



私はね  
あなたに魔王軍に  
入ってもらいたいのよ

なんだと！

ポップ  
あなたほどの魔法使いは  
そうはいないわ

その力は  
魔王軍にとつても  
貴重な存在よ  
それを役立てて欲しいの

どういう  
意味だ？

ケツ！  
そんな馬鹿な事を  
聞くとも思ってたのか？  
とつとと  
煮るなり焼くなり  
しやがれ！

そんな事は  
しないわ  
ポップ……

若い男には  
もっといい方法が  
あるのよ……

特にあなたみたい  
いつもエッチなことを  
考えていて

言うことを  
きかせるのは  
別に口先や拷問だけじゃ  
ないのよ

いやらしい  
人にはね



おま...  
おまえ...!!

ママム  
大好きなわたしに  
こういうことをされて  
どれだけ持つかしら?



ぐっ

無視したってムダよ

あなたのココは  
正直よ?  
ポップ?



あ...がつ...

さあ  
正直に答えなさい

しいい

ママム  
本当はわたしに  
こうして  
欲しいんでしょ？

う……ぐう……

気持ち良くなかったのなら  
あなたのココはなんで  
こんなになっているの！

びんぎんぎん  
びんぎんぎん

どうやら  
ずいぶん

ア……  
ガアアア……  
!!!

いくら黙っていたって  
ムダだって  
言ってるでしょ！

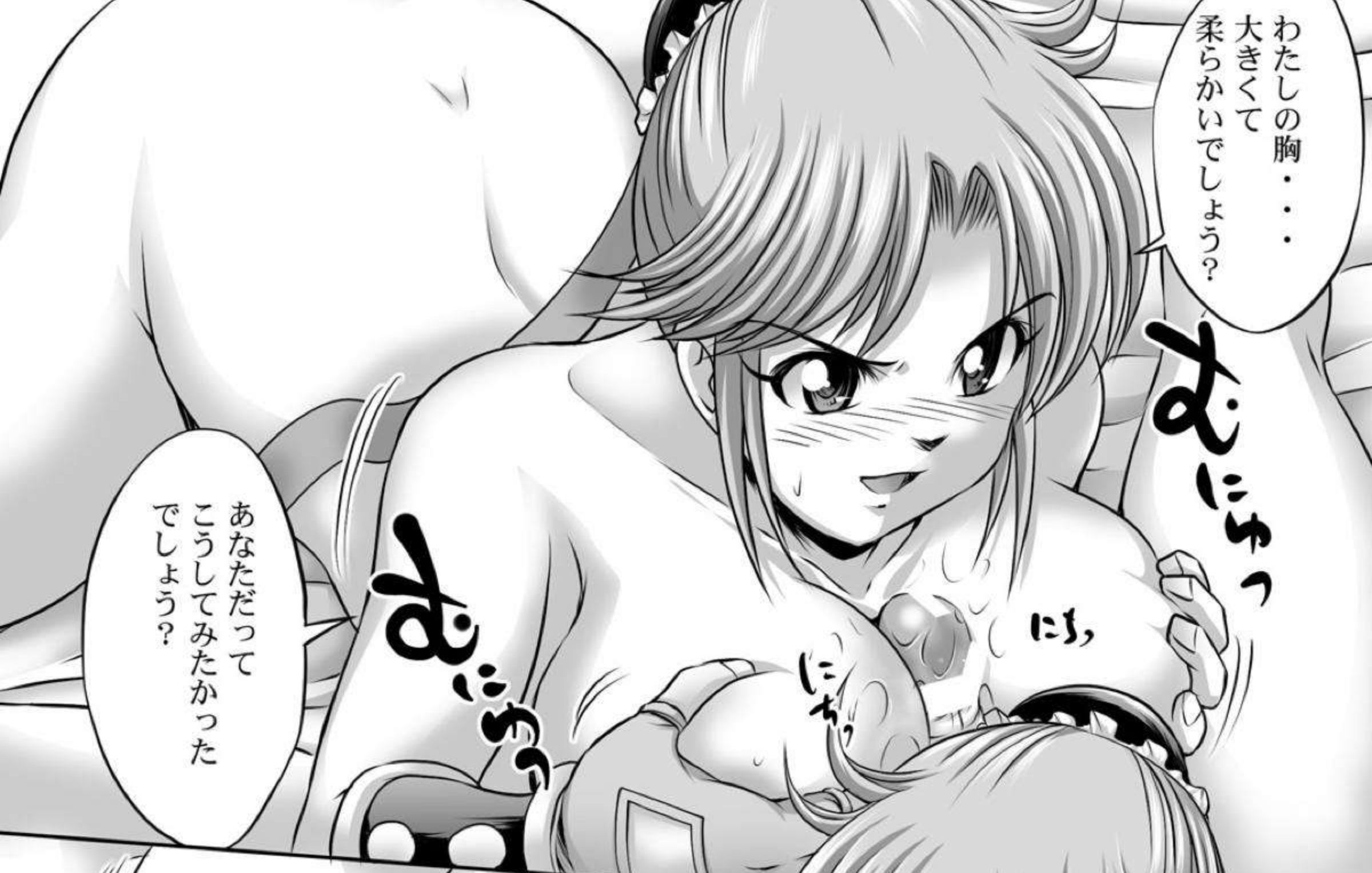
わたしの手は  
気に入ったみたいね

うふふ  
じゃあもつと  
気持ちよくして  
あげるわ♥



ぶいっ  
ぶいっ  
ぶいっ

おあっ  
おうう……



わたしの胸……  
大きくて  
柔らかいでしょう？

あなただって  
こうしてみたかった  
でしょう？



ぶいっ  
ぶいっ

さあ  
それじゃ  
いよいよ本番ね……



あらあら……  
まだ我慢する  
つもり？

それじゃ  
遠慮なくいくわよ

よく見ていなさい  
あなたが  
『男』になる瞬間を

お・  
おおお・  
お・  
お・

ほうら  
根元まで入ったわよ

おっ  
おっ  
おっ

どう?  
ポップ?

ふふ  
いつもあなたが  
想像している通り

鍛えてあるから  
締めりが凄いでしょ?

わたしのココに  
こうしてチンポを  
入れてみたかったんでしょ?

うう...  
うう...

あなたが考えている  
ことなんて  
お見通しよ?

あつくう...

ねえ ポップ？  
いいこと教えて  
あげるわ

私もね  
訓練している時に  
ポップのコレをココに入れて

思いつきり  
締め上げる事を  
考えていたのよ♥

ぬちゅ..

ウ・ソ・ソ・  
言っ・て・ん・じ・や・  
ね・え・  
!

ウソじゃないわよ

自分の  
鍛え上げた肉体で  
男を搾り上げる

そう考えて  
修行して  
いたんだから♪

ほーら  
気持ちいいでしょう？

にゅ

や・め・ろ・お

何言っているの？  
気持ちいいんでしょ  
ほくら♡

アハハハ...

うあ・あ・あ  
やめろお

どうして？  
気持ちいいんでしょ？

わかるでしょう？  
わたしの女の穴に  
あなたの硬いモノが  
入っているのが？

ぬる

う・う・う

ぬちゅ..

ぬる

感じるでしょう？  
女の穴に締めつけられる  
気持ち良さが...

そう言えばさつき  
本物との違いは  
魔王軍に従うって  
言ったわよね

ぬる

実は違いが  
もう一つだけあるの  
なんだかわかる？

ぬる

それはね...  
私は淫乱なの♡

?



なっ！

ホラ！感じるでしょう？  
わたしの膣内が  
キュウキュウ締まるのを？

30  
30  
30

ホッフ  
男のチンポを  
啜えこんで  
放さないのが？

30  
30  
30

にゅん、  
にゅん、  
にゅん、

うふふ  
あなたのエキスを  
搾り尽くすまで  
放さないわよ！

そのために  
訓練したんですもの！

にゅん、  
にゅん、  
にゅん、

にゅん、  
にゅん、  
にゅん、

あ・く・く・く・く・く

お・  
あ・あ・  
あ・

ほら！ポップ！  
なか  
あなたは今その膣内  
に入っているのよ

ずっ

おぼん

ずっ

う・う・う・う

ぬちゅ

どんなに抵抗しても  
あなたのチンポは私の中で  
出したい！出したい！って  
叫んでいるわよ！

にちゅ

ぬちゅ

我慢したってムダよ！  
あなたはもう女の味を  
覚えてしまったんですもの！

にちゅ

あ・あが！

遠慮なく搾り取られて  
エキスを出しなさい！

これが女の体……  
ママム  
わたしの体よ！

マアム  
わたしの肉壺に  
締めつけられる  
心地よさ……

ほらっ！ほらっ！  
気持ちいいでしょう？

そして何より  
マアム  
わたしに搾られて  
ドクドクと生射精する  
快感ッ！！

わたしも  
気持ちいいわあ……

今から  
あなたのエキスを  
搾れるかと思うと  
最高よ！

さあ 出すのよ！ポップ！  
あなたのエキス全部  
搾りとってあげるわ♥





バツ

バツ

バツ

バツ

バツ

ああああ  
ああああ！

ふふ どうも？  
ポップ？

魔王軍に入れば  
毎日わたしがこうして  
あなたの相手をしてあげるわよ♡



バ・・・  
バカ言ってんじゃないわ・・・  
誰が魔王軍なんか・・・

あら？  
まだ搾り足りない  
みたいね・・・



それじゃ 仕方ないわ  
本当はわたしだけで  
おとしたかったんだけど

彼女にも  
手伝ってもらうしか  
ないようね

彼女？



黒い・・・  
マアム・・・？





会いたかったわ……  
ポップ



覚悟するのね  
ポップ

この子は  
わたしとは  
比較にならないわよ

しがるっ



今からわたしが  
あなたの全てを  
搾り取ってあげる♡

ニヤッ

つづム

ペロ



ういう  
だ？

は確かに  
土軍の手先よ

でもね  
この胸も……

この太ももも……

ど  
い

■ おくづけ ■

|     |                                                                        |
|-----|------------------------------------------------------------------------|
| 作品名 | 淫魔の宴4                                                                  |
| 巻数  | 025                                                                    |
| 発行先 | ライトピンク                                                                 |
| 連絡力 | <a href="http://www.r-pink.jp/">http://www.r-pink.jp/</a>              |
| 協力  | 青空市場 ( <a href="http://www.aozora7.com/">http://www.aozora7.com/</a> ) |
| 発行日 | A. D. 2012年10月5日                                                       |
| 原案  | 加山 一角                                                                  |
| 作印  | 尚 たかみ                                                                  |
| 画刷  | 日光企画                                                                   |

本物？  
二セ者が！  
何言つてやが

本全  
物よ部

